

ぎふの産業遺産

<27>

藤橋村の国道303号の橋 直径約一尺の鋼鉄製導水
井野(つばいの)トンネ 管四本で発電用水車に送
ル出口付近に大正時代に

藤橋村の眼鏡橋

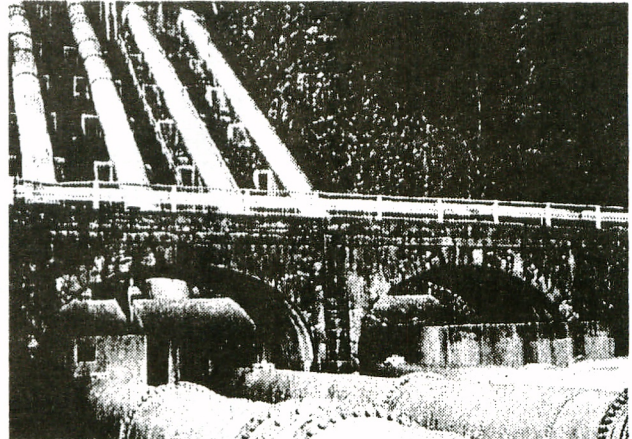
切るためにつくられた石
橋である。

発電所より揖斐川上流
約十キロの藤橋城付近に取
水口があり、取水口より
山の中をくり抜いた長い
隧(すい)道がある。隧
道によって送られてきた
水は、いったん発電所上
部の貯水槽にためられ、

造られた眼 交通手段がまだ自転車
鏡橋があ さえないころ。藤橋村の
る。これは 古老は「隧道や水槽・眼
揖斐川電気 鏡橋がもし壊れたら村は
(株)が東 どうなるか心配で夜も安
横山発電所 心して眠れなかった」と
を建設する 語っていた。「隧道や貯
時、発電所 水槽・眼鏡橋が壊れたら
への導水管 大変だ」と心配する村民
が国道を横

大正時代に石で築造

建設は大正八、九年 五尺、中央の要石(かな
(一九一九、一九二〇 めいし)はほぼ長方形
年)であり、その後補強 で、アーチは半円に近い
工事があったものの、ほ 与形をしており、橋の上
ぼ建設当時のまま現在に 至っている。
眼鏡橋は、幅四尺、ア
ーチ長三九尺、高さ四・
現在は国道が付け替え



東横山発電所の4本の導水管をまたぐ眼鏡橋

られ車もほとんど通らな
くなっているものの、昭
和五年の定期乗合自動車
の運行開始以来、昭和二
十三年の福井地震でも壊
れることもなく、七十年
以上もの使用に耐えてい
る。
この眼鏡橋は丈夫で貴
重な産業遺産である。眼
鏡橋建設当時の写真は残
っているが、残念ながら
石工(いし)の名前や
工事の詳しい資料は残っ
ていない。四月下旬の桜
の季節にここを訪れれ
ば、眼鏡橋から藤橋村へ
折、旧道を上り、
向けて見事な花のアーチ
をくぐることができる。
近くの「木彫りの家」
では、タイから毎年彫刻
技術者を招き、木彫りの
技術者を育てている。な
おこの付近は近い将来
「道の駅」に模様替えが
予定されている。

岸明) 近鉄バス広
瀬行き「夕日
谷口」下車八百尺。車で
は国道303号を北上し、椿
井野トンネル入り口で左
折、旧道を上り、

